

学習対象との出会いの工夫を通して、 旭川市と川との関わりを主体的に追究する意欲を高める学習

1 単元名 「『川のまち旭川』調査隊」【75 時間 55 時間+20 時間（国語と関連）】

2 単元について

本単元のねらいは、旭川市と川との関わりについて調べたり、川を生かしたまちづくりについて考え発信したりすることを通して、川の役割、旭川市と川との関係性、更には川を生かしたまちづくりについての知識を深めるとともに、郷土を愛する心や郷土のためにできることをしようとする意欲を高めることです。

旭川市は石狩川の上流域に位置し、市街部を流れる主要4河川を始め、大小130もの川が流れる川のまちです。一方、児童は日常的に自然に触れる機会が少なく、川が存在を生活との関わりで考えている様子はほとんど見られません。しかし、川が多い旭川に住んでいる現実を踏まえると、生活の中にある川について調べ、考えていくことは、旭川市民として大切な態度であると考えます。そのことが、川に親しむきっかけとなり、ひいては自分たちの住むまちへの愛着につながっていくものと考えます。

そこで、本単元を進めるに当たり、1次では、最初に川体験ツアーを設定し、自分たちの生活が川と関わりがあることを感じさせます。その後、ゲストティーチャーからの依頼を通して、「旭川市の川との関わり」について調査したことや、自分たちが考えた「川を生かした旭川市のまちづくり」について発信するという課題設定へとつなげます。2次では、まず「旭川市と川との関わり」について、一人一人が個の課題を設定して探究し、その後、探究して得た知識を基に「川を生かした旭川市のまちづくり」の在り方について考えます。3次では、2次でまとめた考えを様々な手段で発信します。

【重視した児童の実態】

- 「川のまち旭川」と呼ばれることを知っていたか。
 - ・は い…5名（14%） いいえ…31名（86%）
- なぜ「川のまち旭川」と呼ばれていると思うか。
 - ・川がたくさん流れているから…25名（69%）
- 普段の生活で川に行くことがあるか。
 - ・あ る…7名（19%） な い…29名（81%）
- 川は私たちの暮らしにどのように役だっていると思うか。
 - ・わからない…12名（33%） 生活水…6名（17%）
- 「川のまち旭川」のためにできることは何か。
 - ・川をきれいにする…17名（47%） な い…10名

3 単元の目標及び評価規準

(1) 単元の目標

- 旭川市の川との関わりについて調べたり、調査したことを基に川を生かしたまちづくりについて考え発信したりすることを通して、川の役割や川を生かしたまちづくりについて理解することができる。（知識及び技能）
- 様々な体験活動を通し、感じたこと・考えたことから課題を作り、情報を集め、整理分析し、自分なりの方法でまとめ・表現することができる。（思考力・判断力・表現力等）
- 友達と一緒に活動するよさを大切にしながら、力を合わせて活動したり、学習を通してできるようになったことや分かったこと、新たな解決の仕方やものの見方・考え方が身に付いたことに気付いたりする。（学びに向かう力、人間性等）

(2) 単元の評価規準

| ア 知識及び技能 | イ 思考力・判断力・表現力等 | ウ 学びに向かう力、人間性等 |
|--|---|---|
| ①旭川市は川との関わり（治水、利水、親水、環境、生物、防災、文化、歴史等）が強いまちであることを理解する（事実に基づく知識）。 ②旭川市の川の取組（治水、利水、親水、環境、生物、防災、文化、歴史等）や、川を生かしたまちづくりについて理解する（転移可能な概念）。 ③旭川市は、川と共に発展したことや、川を支える人たちの努力や愛着によって支えられていることを理解する（原理や一般化）。 | ①学習対象に積極的に関わることを通して、課題を発見し設定する（A）。 ②解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる（A）。 ③情報収集したこと、分かったことや気付いたことを整理・分析し、自分の考えを分かりやすく表現する（B、C、D）。 | ①課題解決に向けて、一緒に活動するよさを大切にしながら、力を合わせて活動している（E）。 ②できるようになったことや分かったこと、新たな解決の仕方やものの見方・考え方が身に付いたことに気付いている（F）。 |

4 研究との関連

(1) 単元の指導計画

研究視点1-1

《総合的な学習の時間（1次：発見過程）を通して育てたい本校の資質・能力と単元との関わり》

- A 解決策を構想する力…体験活動等を通して、課題を設定し、学習活動の見通しをもつ児童。
 C 論理的に考える力…課題解決を目指して事象を比較したり、関連付けたりして考える児童。
 E 友と関わり合う力…問題の解決や探究活動に協働的に取り組む児童。
 F 自らを振り返る力…自らの学びを意味付けたり価値付けたりして自己変容を自覚する児童。

| 次 | 段階 | 時間 | 学習内容と学習活動 | 他教科・領域との関わり 思考ツール・技法 | よりよく生きようとする 力を高める児童の姿 |
|-----|--------------------------------------|--|---|--|---|
| 第一次 | 学 ぶ め あ て を も つ | ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ | ◇学習対象と出会う。 ◇川体験ツアーに行く。 「ツアー①：防災施設見学会」 ・忠別ダム、永山新川管理センター 「ツアー②：川遊び体験」 ・カムイの森、旭橋 ◇単元のゴールを設定する。 【単元のゴール】「旭川市の川との関わり」について調査したことや、自分たちが考えた「川を生かしたまちづくり」について発信しよう！ ◇ゴールまでの流れを明確にする。 ・「旭川市と川の関わり」について調査しよう。 ・調査したことを基に「川を生かしたまちづくり」を考えて発信しよう。 ◇発見課題を設定し1次の学習計画を立てる。 【発見課題】なぜ旭川は「川のまち」なのだろう。 | ・チャレンジ「発見！旭川」（3年） ＜学習内容・方法＞ ・社会「旭川市の様子」（3年） ＜学習内容・方法＞ ・国語【話すこと・聞くこと】 《資質・能力》 ・ピラミッドチャート （技法：具体化する） ・KWL（技法：見通す） | 一緒に活動するよさを大切にしながら活動している。 川体験ツアーでの体験やゲストティーチャーの話から課題を発見し、単元のゴールを設定している。 単元のゴールの実現に向けて、自分たちにできることを話し合い、これから自分たちが取り組む学習活動を明確にしている。また、その実現に向けた学習計画を立てている。 |
| | | ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ | ◇G Tから「旭川市と川との関わり」について学ぶ。 ・治水、利水、親水、環境、生物、防災、文化、歴史等 ◇旭川市民に「旭川市と川との関わり」への関心や知識を調査する。 ※保護者へのアンケート、街頭インタビュー（買い物公園） ◇調査した情報を基に、なぜ旭川は「川のまち」なのかを明らかにする。 | ・国語【話すこと・聞くこと】 《資質・能力》 ・国語【話すこと・聞くこと】 《資質・能力》 ・算数【データの活用】 《資質・能力》 ・社会【情報を収集する技能】 【情報をまとめる技能】 《資質・能力》 ・コア・マトリックス （技法：関連付ける） | 調査活動から得た多様な情報を比較したり、分類したりしながら、旭川が「川のまち」と呼ばれている理由について自分の考えを深めている。 |
| | ま と め | ㊿ | ◇学習を振り返り、感想や新たな疑問を交流する。 ◇川マップを知るとともに、追求課題①（2次）を設定する。 【1次のまとめ】 旭川市は川との関わり（治水、利水、親水、環境、生物、防災、文化、歴史等）が強いまちだから「川のまち旭川」と呼ばれている。 【追求課題①】 川マップづくりに向けて、川の〇〇を探ろう。 | ・KWL（技法：見通す） ・イメージマップ （技法：広げる） | これまでの学習を振り返り、自らの学びを価値付けるとともに、感想や新たな疑問を基に、追求課題（2次）を設定している。 「旭川市と川との関わりについて」理解している。 |

(2) 教育過程の改善の視点

研究視点 1－1

総合的な学習の時間では、汎用的な資質・能力の育成が求められています。そのためには、各教科等で身に付けた資質・能力を相互に関連付けることが重要です。

本単元の1次では、調査活動、話し合い活動を設定していることから、国語、社会、算数の関わりが深いと判断しました。そこで、その3つの教科の中から、探究課題を解決するために必要な資質・能力を洗い出し、活用する場面を設定しました。

| 教科等 | 資質・能力 | 主な活動場面 |
|-----|---|---|
| 国語 | 【話すこと・聞くこと】 ・必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつ力 ・目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる力 | ・旭川市の川との関わりについてインタビューをしたり、全体で考えを整理したりする場面 |
| 算数 | 【データの活用】 ・目的に応じてデータを集めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目し、問題を解決するために適切なグラフを選択して判断し、その結論について考察する力 | ・旭川市民や観光客が旭川市と川との関わりについてどのくらい関心があるのか、またどの程度の知識をもっているのかについて調査したことをまとめる場面 |
| 社会 | 【情報を収集する技能】 ・行政機関や事業者、地域住民等を対象に聞き取り調査、アンケート調査などを行い、情報を集める力 【情報をまとめる技能】 ・聞き取って自分のメモにまとめる力、数値情報をグラフに転換する力、項目やカテゴリーなどに整理してまとめる力 | ・上記の2つの場面 |

(3) 発見課題の設定までの過程

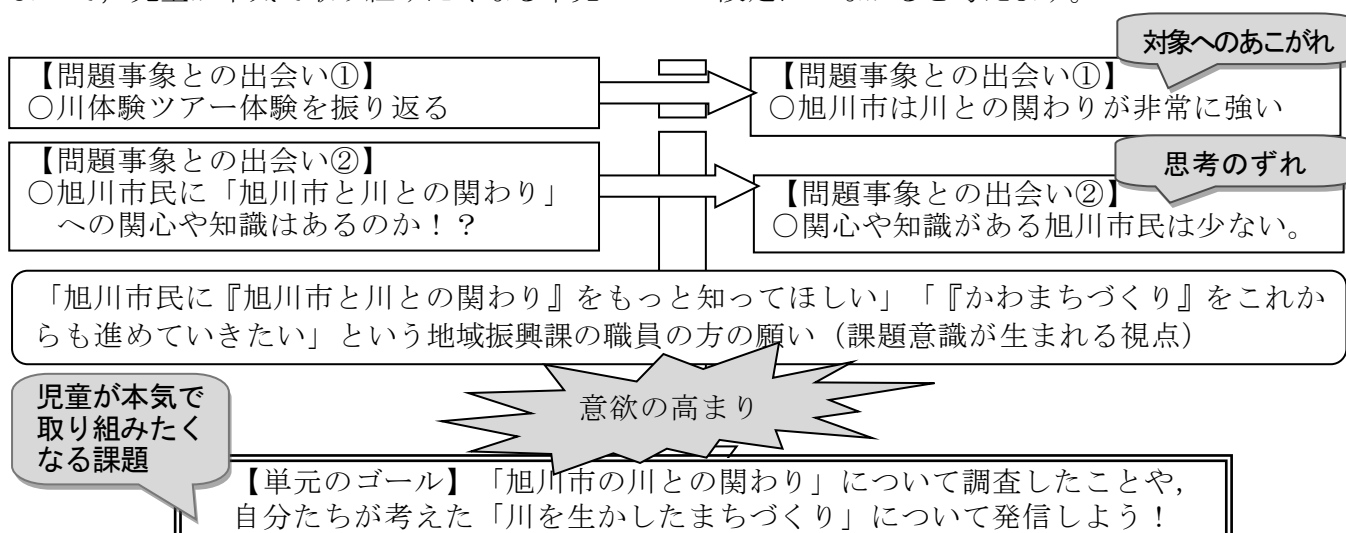
研究視点 2－1

本時では、「発見課題の設定までの過程」の①②までを授業で行います。児童が、対象への「あこがれ」や「可能性」を感じる場面や自分の考えとの「ずれ」を感じる場面を設定したり、ゲストティーチャー（以下、G T）が、新たな課題意識が生まれる視点を提示したりすることによって、これから始まる探究的な学習への児童の意欲を高めます。

対象への「あこがれ」や「可能性」を感じる場面として、川体験ツアーを振り返る活動を設定します。児童が体験ツアーでの気付きや疑問を述べたり、自分たちの意見が整理された板書を見たりすることを通して、旭川市と川との関わりが明確になり、自分たちが住んでいるまちに対する「あこがれ」や「可能性」を実感できると考えます。

自分の考えとの「ずれ」を感じる場面として、旭川市民の「旭川市と川との関わり」に対する関心や知識を予想させる活動を設定した後、G T（地域振興課の職員）に、旭川市と川との関わりに関心をもっている旭川市民が少ないことを伝えてもらいます。事前調査の結果から、児童は、旭川市民は川との関わりに関心があると考えている児童が半数以上いることが明らかになっていますので、G Tの話から思考の「ずれ」が生じることが予想されます。

新たな問題意識が生まれる視点を提示する場面では、G Tに「旭川市民に『旭川市と川との関わり』をもっと知ってほしい」「『かわまちづくり』をこれからも進めていきたい」という願いを述べてもらいます。児童は、昨年度の総合的な学習の授業の経験から、今年度も自分たちが調べたり考えたりしたことを発信したいという思いが高まっているので、以上の手立てによって、児童が本気で取り組みたくなる単元のゴール設定につながると考えます。



5 本時の学習

(1) 本時の目標

問題事象との出会いから、対象への「あこがれ」や「可能性」、自分の考えとの「ずれ」を実感したり、探究的な学習へ意欲を高めたりすることを通して、追究したい課題を発見し、単元のゴールを設定することができる。

【思考力・判断力・表現力（A 解決策を構想する力）】

(2) 本時の展開（75 時間扱いの 14 時間目）

| 学習内容と主な学習活動 | 研究とのかかわり・留意点 |
|--|--|
| 1 本時の学習内容を確認する。 ・今日は、単元のゴールを設定する。 | ・川体験ツアーでの児童の振り返りを紹介する。 ・探究的な学習の流れを確認する。 |
| 2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;">単元のゴールを決めよう。</div> | |
| 3 本時の学習の見通しを立てる。 | ・児童と本時の学習の流れを決める。 |
| 4 川体験ツアー体験の振り返りを交流する（問題事象との出会い①「対象へのあこがれ」）。 ・旭川の川はきれいで、生き物がたくさんいたよ。 ・ダムは川の水の量を調整したり、私たちの生活を洪水から守ったりしてくれていた。 ・旭川市は川との関わりが非常に強いまちだった。 | ◇児童の主体性を生む課題の設定 研究視点 2-1 ・「旭川市と川との関わり」に対する「あこがれ」や「可能性」を感じさせる。 |
| 5 旭川市民の「旭川市と川との関わり」への関心や知識を予想する。（問題事象との出会い②）。 ・川のまちだから、旭川市民は「旭川市との川との関わり」に対する関心が強いし、知識も豊富なはず。 ・自分の家族は、旭川市の川について全然知らなかったの、旭川市民の関心や知識は低いのでは。 | ・川体験ツアーや生活経験を基に、根拠のある予想を発想させ、表現させる。 ・地域振興課（旭川市）の「かわまちづくり」の話題を出す。 |
| 6 旭川市民の「旭川市と川との関わり」に対する関心や知識の現状、旭川市の「かわまちづくり」の取組を地域振興課の方から学ぶ（問題事象との出会い②「思考のずれ」、問題事象との出会い③）。 ・「旭川市と川の関わり」についての知識や関心がある旭川市民は少ない。 ・「旭川市と川との関わり」について旭川市民にもっと知ってほしいという願いをもちながら、地域振興課の方は「かわまちづくり」に取り組んでいる。 | ◇児童の主体性を生む課題の設定 研究視点 2-1 ・児童の考えとの「ずれ」を感じさせる工夫 ・ゲストティーチャーによる新たな課題意識が生まれる視点の提示 |
| 7 単元のゴールを設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">「旭川市と川との関わり」について調査したことや、自分たちが考えた「川を生かしたまちづくり」について発信しよう！</div> | ・個人思考→グループ交流→全体交流の流れで進める ※考えるための技法「具体化する」思考ツール「ステップチャート」 |
| 8 学習を振り返る。 ・課題のゴールを設定することができたよ。 ・これから「旭川市と川との関わり」について調査していきたい。 ・旭川の川を生かしてどんなまちづくりができるのかな。考えるのが楽しみだな。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">【イー①】 追究したい課題を発見し、単元のゴールを設定している。 (付箋・発言)</div> ・7つの振り返りの視点のうち①②⑦は必ずノートに書くように指示する。 |

◇授業の見所・本時で願っている児童の姿

○対象への「あこがれ」や「可能性」、考えの「ずれ」やゲストティーチャーからの課題意識が生まれる視点の提示によって、自分の考えを出し合い、追究したい課題を考える姿。